

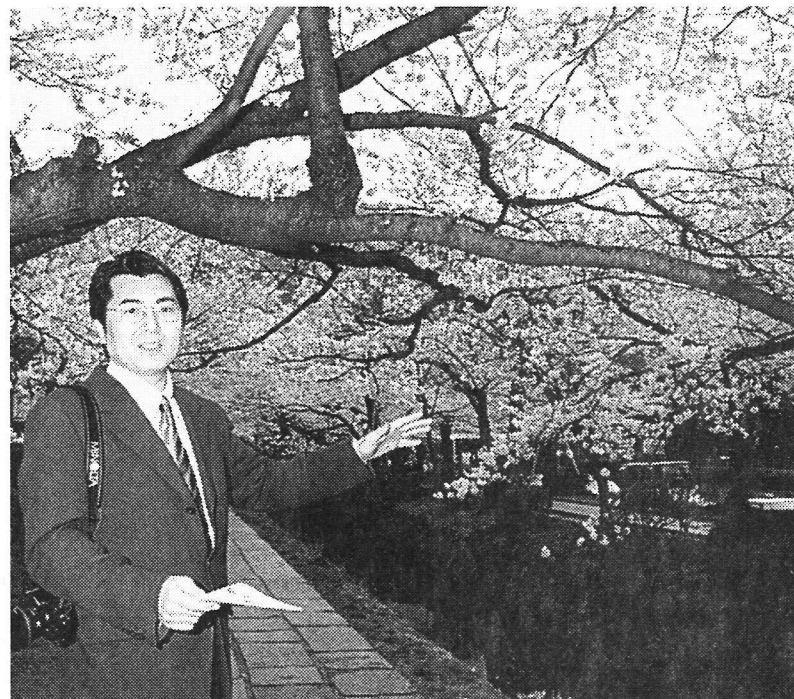
京都

中国料理

白龍

北山通・山崎通・北山門前 電話 77-1919

京都支局



銀閣寺手前の桜並木に立つ大森正夫
・京都嵯峨芸術大助教授＝左京区で

《哲学の道》 左京区
の若王子神社前から銀閣
寺前へ続く約2kmの区間
で、琵琶湖疏水分線に沿
っている。哲学者・西田
幾多郎が散策したこと
で命名されたという。日本
画家橋本関雪ゆかりのソ
メイヨシノ約450本が
咲く。

桜の「哲学の道」なぜ魅力的?

CG活用、大森助教授が分析

白川通今出川。「哲学の道」と看板がかかった交差点から、桜並木は始まる。右手には、はるか遠くに大文字山。左手には、一面の桜の花。

「左右両方には桜が見えない非対称性。『生け花』の世界に通じる日本的な美しさを感じます」

さっそく桜のトンネルを進む。琵琶湖疏水の川面にはり出した枝に先を遮られ、頭を下げた通り抜ける。「視線を上げなくても、花を見られるでしょう。さらに水面にうつった桜を見て下さい。不思議と安らかな気持ちになりますか」

たしかに、枝を見上げると東山があり、三要素すべてがそろっているという。「大文字山もあるし、ここに来ればまさに『京都に来た』と実感できる場所です」と説明する。疏水沿いにゆるく曲がりくねった道が続く。大森助教授は「次々と景色が移り変わっていくのが日本的な空間と考えている。絵や写真とは違って、一つの構図の印象は薄い。だが、歩くことで新しいものが見えてくる。銀閣寺前の参道もその一つ。CGで再現した結果、目的地へ向かう『道すがら』の美しさが見えてきたという。

- 非対称の美しさ
- 京都らしさ勢ぞろい
- 歩けば変化する風景



CGで描いた銀閣寺前の参道の桜並木／大森助教授提供

桜が満開の京都で名所として知られる「哲学の道」(左京区)。京都嵯峨芸術大の大森正夫助教授(43)は、その風景の魅力について分析を重ねている。さまざまな観光ガイドの写真の特徴を分析したり、銀閣寺前の参道をCG画像で再現したり。「何げなく良い、と感じるところには必ず秘密があります」(大森助教授)。さあ、一緒に桜の下を歩いてみましょう。

